

# 2021年東京オリンピック・パラリンピック はこうして行われた



乗馬クラブ クレイン/大和高原動物診療所  
天谷 友彦



# これまでのオリンピックとの違い

- 過酷な気象条件  
高温多湿 (WBGT 32°C以上)
- 競技環境  
競技時間・無観客・夜間の照明・Covid-19
- 参加国数の増加  
団体枠を従来の4頭から3頭に減らした  
⇒ 4力国増加

# オフィシャル獣医師

- 獣医師団
  - 馬にとって安全な運営、Welfareの遵守の確認
  - 獣医事の統括
- 獣医サービスマネージャー
- 救護獣医師
  - 救護・治療・検査等を担当
- ドーピング担当獣医師



# オフィシャル獣医師のサポート

- 運動時間中の馬の監視
- 急患対応
- 各種検査
  - 一般血液検査、Swab検査
  - 画像診断
- 手術



# チーム獣医師

- 各国の競技種目ごとに指名される
- 競技場に到着後、オフィシャル獣医師に登録申請をする)
- 輸送から競技までのコンディション管理、治療を担当する



# チーム獣医師ミーティング

- 各競技種目ごとに実施
- オフィシャルメンバー紹介
- 獣医療サービスの説明、FEIルール確認
- 暑熱時対策の説明



# チーム獣医師の治療

- 競技前後の治療
  - ビタミン剤・関節保護（ヒアルロン酸・ペントサン他）
  - 電解質・ホメオパシー
  - ネブライザー
- 理学療法
- 輸送後の発熱、外傷
- 疝痛



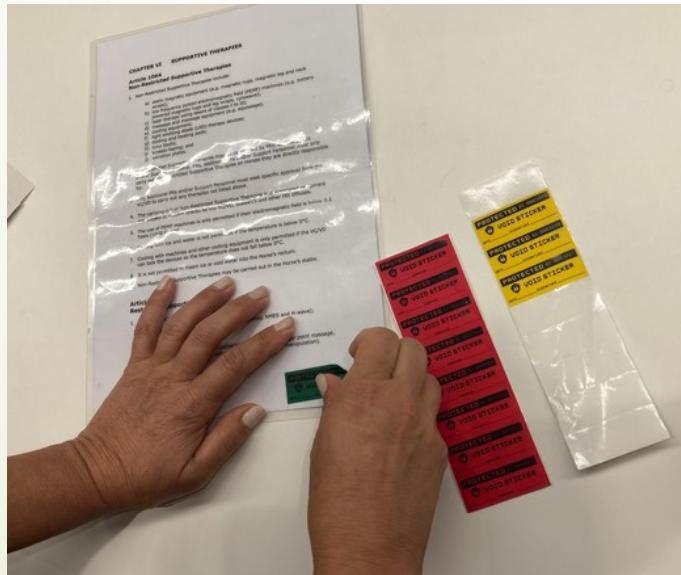
# 急性蹄葉炎：到着後に発症





# 理学療法：Physio Therapy

- 申請があった獣医師、馬理学療法士が施術できる
- オフィシャル馬理学療法士（獣医師資格を持つ）が期間中対応
- チーム獣医師持込の理学療法機器はチェックを受ける



# 入厩検査

- ・ 個体識別
  - パスポート
  - マイクロチップ
- ・ ワクチン接種履歴
- ・ 健康状態
  - TPR ・ BT ・ 排泄物等
- ・ 外貌
  - 外傷 ・ 皮膚病等



# 入厩から競技へ向けて 体調管理とトレーニング

入厩日～2日目：曳き運動・grazing zoneで採食

3日目～：徐々にトレーニング強度を上げる

午前7:00～11:00

総合馬はギャロッピングを行う

午後3:00～9:00

午前より強めのトレーニング

競技2～3日前：競技馬場での馴致（夕方以降）

競技前日：インスペクション

競技：予選・決勝



# 練習馬場



# Grazing zone



# 競技馬場での馴致



# 暑熱対策

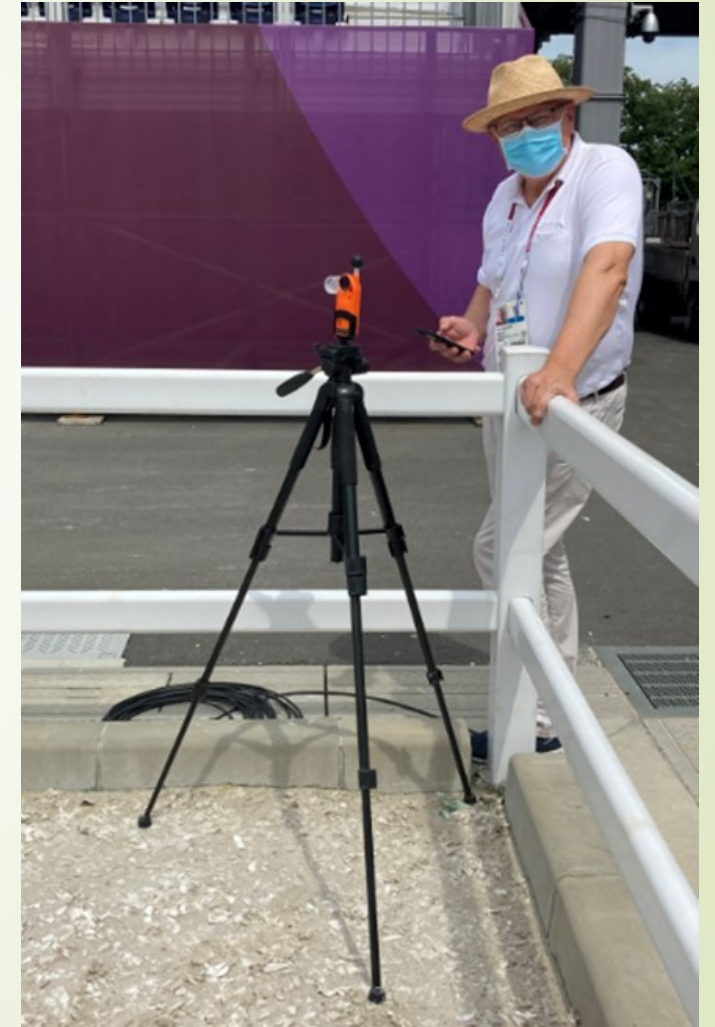
- WBGTT測定
- 施設：厩舎、クーリングテント
- サーモグラフィの応用
- ミーティング  
    情報共有・運動時間等の変更
- XCコースの変更



# 暑熱対策：WBGT 測定

- 練習馬場、室内馬場、競技馬場等に設置
- 15分おきに測定
- 32°C以上での運動は危険
- 競技馬場および練習馬場

午後5時以降は概ね32°C以下であった





# 暑熱対策： 厩舎内エアコン・クーリングテント



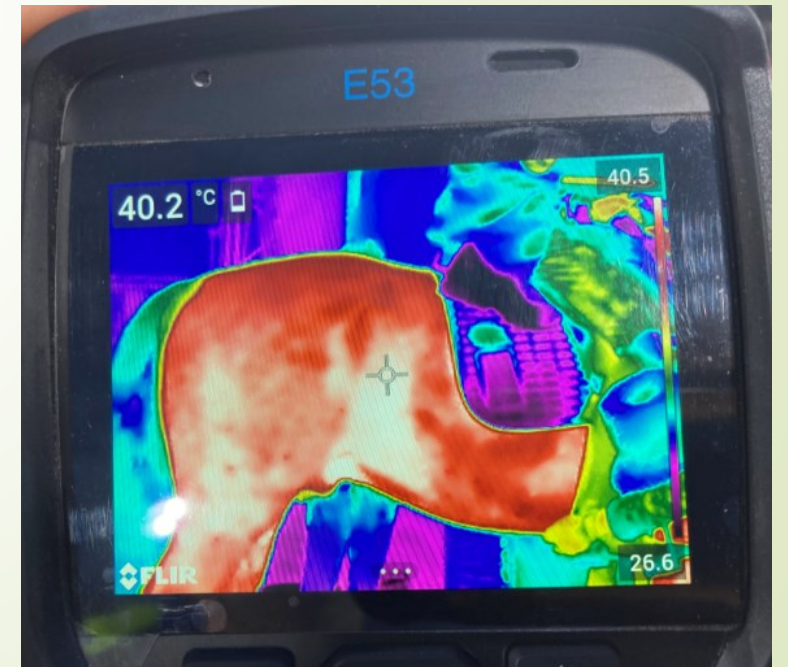
# 暑熱対策：厩舎でのクーリングダウン

- ・ 厩舎出入り口にもクーリングダウン用の冷水を準備
- ・ 14°C以下で維持

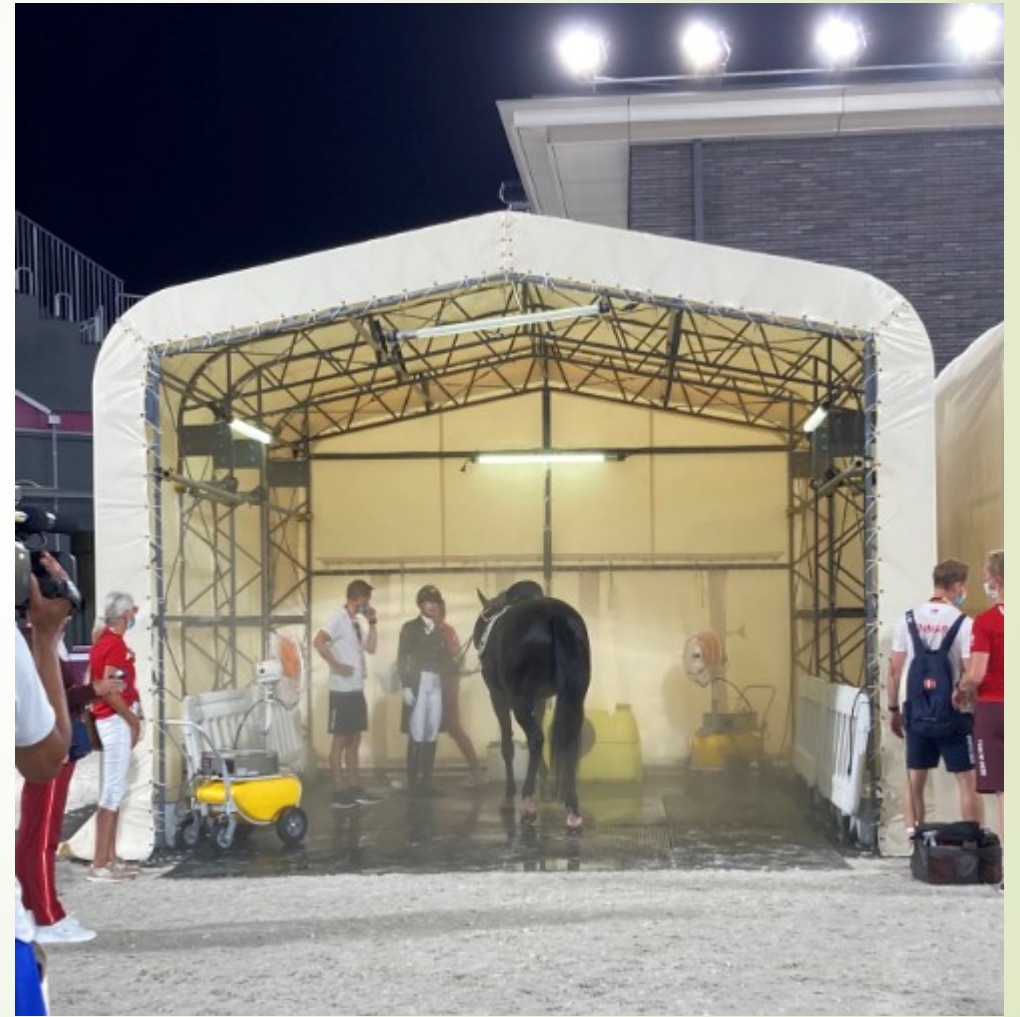


# 暑熱対策：サーモグラフィの応用

- ・ 競技前後にサーモグラフィで体表温を測定
- ・ 高い場合はクーリングダウンの指示



# クーリングダウン 競技終了直後



# 暑熱対策：X-C競技

- ・ 運動強度の検討  
    走行距離の短縮・坂路部分の減少
- ・ スタート前のコンディションチェック  
    サーモグラフィでの測定  
    クーリングダウン指示



# 暑熱対策：X-C競技 スタート前

- ・ ウォーミングアップエリアに併設



# 暑熱対策：X-C競技 ゴール後



# ドーピング・コントロール





# トピック： 裸蹄は今後のトレンドになるか？

- 3頭の障害馬が出場
- 装蹄師の見解は？



# おわりに

- 獣医学の科学と知識を、オリンピックという大きなスポーツイベントで馬術競技と結びつけることができた
- 次のステージへ…

